

の仲間なので、今日は落ち着いて取付く事が出来る。リーダーの深沢さんから注意を受けて、すぐに取付きに向った。通いなれたピナクルテラスから、昨日の終了点であるテラスに急いだ。大青白ハング上の草付テラスからは、60メートルのフィックスロープがセットされているので、容易に気持良く登る事が出来た。けれどもザック無しでも肩にくいこむ三ツ道具の重さには閉口した。

ここから先は未知の壁だった。昨年はこの少し先の人面まで行っただけなのだから。不安と空威張りの様なファイトが、身体中を駆けめぐる。それで不安を払いのけようと、僕は先を急いだ。檜山の到着とともに出発した。5メートル程上のバンドに登り、二段のバンドの上段に登った。その時にアイスハーケンを打ち込んだが、僕の愛用していた松坂さんから貰ったハンマーが脆くも折れて、頭部が、壁の基部にせり上っている雪溪まで、乾いた音をたてて落ちて行ってしまった。不安な気持ちになる……。人面のハングに頭をおさえられる格好で、左へ20メートル程トラバースし、急な草付を登って灌木のテラスに立った。ザイルが岩をこするだけで岩が落ちるほど脆いピッチだった。檜山が登ってきて後壁に取付いてはじめての休憩を持った。この付近はハングに頭をおさえられているとはいえ、草付と灌木に囲まれていて、近郊のゲレンデにでもいる気軽さを与えてくれる。予定通りガリーにルートを取る事にして、昼食前に偵察とルート工作に出かけた。基部付近から見ると、このガリーは簡単に登れる完全なガリーだが、取付いてみると、一寸した凹角で中に3段の小ハングが連続していた。ハーケンとボルトを打込み、先の見通しをつけた。



写真中央にトップ

昼食の固いパンと少量のジャム、水で腹を満たして、ハングの乗越しにかかった。先程のルート工作にアイスハーケン1本を打ちだし、不安定な灌木を利用して、案外簡単に乗越す事が出来た。上部は比較的岩の安定した軟傾斜になっていたが、そこまでの6メートル程は、頭上のハングをよけて、右側の垂直に近い草付を登らねばならない。ザイルシュリングを灌木にセットし、ハンマーとアイスハーケンを両手に持って草付を登り、軟傾斜のガリーに立つ事が出来た。水に洗われた岩肌は、この岩場で初めて安定したクライムを楽しませてくれた。最後のチムニーの下に立った僕等は、あと2ピッチでこの壁の完登を確信した。しかし予定のルートであるチムニーは、チムニーにしては幅が広すぎ、中には不安定なハングした岩がつまっているので、登攀出来ずと考え、左側よりエスケープする事にした。安定した草付のバンドを左にトラバースし、なるべくチムニーよりのルートを作ろうと2・3のルートを考え、アタックしたけれど、いずれも失敗してしまった。この壁はある程度緩い傾斜だが